

家成俊勝

猪熊純

川辺直哉

河内一泰

赤代武志

末光弘和

武井誠

寺田尚樹

長坂常

中村竜治

鍋島千恵

平田晃久

藤野高志

藤村龍至

山口誠

山崎亮

浅子佳英

五十嵐太郎

門脇耕三

PRISMIC

ゼロ年代 建築家の 流儀

プリズミックギャラリー編

家成俊勝

猪熊純

川辺直哉

河内一泰

赤代武志

末光弘和

武井誠

寺田尚樹

長坂常

中村竜治

鍋島千恵

平田晃久

藤野高志

藤村龍至

山口誠

山崎亮

浅子佳英

五十嵐太郎

門脇耕三

The Style of 2000s Architects

ゼロ年代 建築家の 流儀

プリズミックギャラリー 編

彰国社

PRISMATIC

Prologue ゼロ年代建築家による六つのセッション

プリズミックギャラリー

二〇〇五年に開設したプリズミックギャラリー（東京都港区南青山）では、これまで若手建築家による企画展を開催してきました。約六〇回にわたる展覧会を振り返ってみると、出展者の皆さんは今や日本の建築界をリードする建築家たちばかりです。

ギャラリー開設一〇周年を迎えるにあたり、彼らの視点を通してこの一〇年間の建築潮流を振り返りながら、今後の可能性をさまざまに見出してみたいと考えました。そこで、コミュニティやシェア、リノベーション、環境、コラボレーション、デザイン領域の拡張など、この一〇年間で顕著になったテーマを軸に六つのセッションを設け、ゼロ年代（二〇〇〇～二〇〇九年）に独立した一六名の建築家とともに議論を進めてきました。さらに、ゼロ年代以降の建築家の活動やその背景をレビューする、浅子佳英氏、五十嵐太郎氏、門脇耕三氏の鼎談も収録しています。

二〇〇〇年以降、建築の潮流、建築家の設計スタンスというものが、どの時代にも増して多様化してきました。本書は、その先にどんな社会が立ち現れるのか予見しようという試みです。

Prologue	ゼロ年代建築家による六つのセッション	プリズミックギャラリー	003
Session 1	コミュニティとコミュニケーションのデザイン	猪熊純＋藤村龍至＋山崎亮	006
Session 2	建物の意味を再発見・増幅するリノベーション	家成俊勝＋河内一泰＋赤代武志＋長坂常	026
Session 3	建築の新たな根拠を求めて	武井 誠＋鍋島千恵＋平田晃久	048
Session 4	自然を取り込む建築／自然化する建築	末光弘和＋藤野高志	068
Session 5	建築から拡張するデザイン	寺田尚樹＋中村竜治	086
Session 6	協働から見出す建築家の役割	川辺直哉＋山口 誠	106
Review	ゼロ年代以降の建築家像を捉えてみる	浅子佳英＋五十嵐太郎＋門脇耕三	124
Epilogue	プリズミックギャラリーの現場から		144
	プリズミックギャラリー10周年を迎えて		146
About the Editors	編者紹介		148
Event Archives	プリズミックギャラリー イベントアーカイブ		149
Acknowledgment	謝辞		162
Credits	クレジット		163

※Session 1～5とReviewの進行は岡本伸哉（フリックスタジオ）／Session 6の進行は彰国社編集部が行った。

コミュニティとコミュニケーションのデザイン

猪熊純 + 藤村龍至 + 山崎亮

山崎 亮 studio-L 代表 / 東北芸術工科大学教授 (コミュニティデザイン学科長) / 慶應義塾大学特別招聘教授。1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院 (地域生態工学専攻) 修了後、SEN環境計画室勤務を経て2005年にstudio-Lを設立。「コミュニティデザイン」をキーワードに、過疎地域まちおこしから施設活用、商品開発まで多くのプロジェクトを手がける。主な著書に『コミュニティデザイン』(学芸出版社)、『ソーシャルデザイン・アトラス』(鹿島出版会)、『コミュニティデザインの時代』(中公新書)、『まちの幸福論』(NHK出版) など。

藤村龍至 藤村龍至建築設計事務所代表 / 東洋大学専任講師。1976年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。2005年より藤村龍至建築設計事務所主宰。2010年より東洋大学専任講師。主な作品に「鶴ヶ島太陽光発電所環境教育施設」など。主な著書に『批判的工学主義の建築』(NTT出版)、『プロトタイプング—模型とつづやき』(LIXIL出版) など。近年は建築設計やその教育、批評に加え、公共施設の老朽化と財政問題の解決を図るシティマネジメントや、日本列島の将来像の提言など、広く社会に開かれたプロジェクトを展開している。

猪熊 純 成瀬・猪熊建築設計事務所主宰 / 首都大学東京助教。1977年神奈川県生まれ。東京大学大学院修了後、千葉学建築計画事務所勤務を経て、2007年に成瀬友梨と現在の事務所を設立。「シェアする場をつくること」をコンセプトに、建築設計・企画などを行う。主な作品に「世田谷フラット」、「リリカフェ」、「LT城西」(日本建築学会作品選集新人賞受賞ほか)、「KOIL 柏の葉オープンインベーションラボ」(JCDデザインアワード銀賞ほか) など。主な著書に『シェアをデザインする』(共著、学芸出版社) など。

展覧会でまとめたマニフェストが現在の活動の原点に

プリズミックギャラリーでの展覧会を振り返りつつ、現在のみなさんの活動についてお伺いしたいと思います。まずは藤村さん、二〇〇七年三月の「藤村龍至展」ではどのような展示を行いましたか。

藤村

当時はインテリアや改修の仕事が中心で、竣工した建築プロジェクトが一つもなく、「BUILDING X」（二〇〇八年）の実施図面がようやくできあがって、これから見積もりをとるというような時期でした。今思えば、そんな状態でよく個展をやらせてもらえたと思います（笑）。実作がないので、展覧会ではその時に必要な考え方をマニフェストとしてまとめて、「ワンヴィジュアル・ワンセンテンス」というかたちでプロセスを振り返り、それをリニアなストーリーにしてプレゼンテーションしようと考えました。同時に、『ROUNDABOUT JOURNAL』というフリーペーパーをつくって、情報発信することを試みました。これが起点になって、その後さまざまなメディア活動をするようになり、それが評価されて、実際に行政とのプロジェクトの場面で応用することになりました。この展覧会をきっかけに展開したので、いろいろな意味で私にとっての原点です。

藤村

この展覧会で提示した「オープンプロセス」という方法が、その後に関わった公共プロジェクトにピタッとはまったんです。この時は公共を意識していたわけではなく、プロジェクトをなんとか実現しようという思いで、とにかく目の前の人を説得するんだと一生懸命模型を並べてプレゼンしていました。一つひとつ模型にして一列に並べれば、プロセスも透明になるはずだと思いましたが、誰もまだそういうふうには言っていなかった。今でこそ「超線形プロセス」や「批判的工学主義」と発言し

ていますが、当時は自分が考えていることを何と呼べいいか分からなくて……。そこで、この機会に同世代の建築家や編集者と議論しながら、フリーペーパーをつくることで言葉を与えようと思ったんですね。それがなんらかのかたちで、自分が生まれ育ったような郊外や都市を救うに違いはないという、無根拠な確信みたいなものがあつたんです。



藤村龍至氏



展覧会で配布されたフリーペーパー



「藤村龍至展」の展示風景

人がどう活動するのかを考えて空間をつくる

――二〇〇九年八月の「成瀬友梨+猪熊純プロジェクト展 Growing from Context」はどのような展示でしたか。

猪熊 僕らは二〇〇七年に独立したのですが、この頃はまだ完成した建築もないような時期でした。現在僕らがテーマにしている「シェア」という言葉も使っていないで、悶々としていました（笑）。

藤村 展覧会のポスターに「Growing from Context」という言葉が書かれていますが、当時はそういった気分があったのですか。

猪熊 ありましたね。その頃、平田晃久さんや藤本壮介さんが複雑な空間をあざやかにつくっているのを見て、「自分は空間をつくるきっかけをどこに求めるんだろう」と考えていました。展覧会では進行中のプロジェクトやコンペの入賞作品を展示したのですが、何をフックにして空間を立ち上げるのかということが、まだ少しプロジェクトごとにブレていた時期でした。シェアハウスの計画のきっかけになった集合住宅などを展示することにしたのですが、一つひとつのプロジェクトの説明を書いているうちに、人がどう活動するのかを考えていることが多いなと感じたんですね。

―― 抛りどころとするコンテキストの中でも、アクティビティに関するものが多かったと。

猪熊 結果として増えていきました。「ひとへやの森―インタラクティブな風景展」の写真を展示しましたが、これは日本のワンルールのような狭い空間でどう住まうかを考えて、コンペで実現したインスタレーション的な作品です。人が一人いても一〇人いてもなんとなく心地よく成立するような空間が好きだったんですね。今思うと、僕たちが目指している方向性はこの時すでにあったと思います。人が過ごす場所をつくることに興味があって、一般の人にも伝わる言葉をずっと探していたんですね。



2009. 8. 21fri - 9. 23wed プリズミックギャラリー

入場無料 | 開館時間 火～日 10:00～18:00(月曜が祝日の場合は火曜日休館) | アクセス 東京メトロ有楽線「外郎前」駅後出口より、徒歩5分
お問い合わせ | 成瀬・猪熊建築設計事務所 03-5354-2950 <http://www.nurukusa.co.jp> | プリズミックギャラリー 03-5770-4731 <http://www.prismic.jp/gallery/index.html>
現在進行中のプロジェクトからコンペの入賞作品まで、私たちの作品を機能的に紹介します。
今年秋に竣工するランドスケープを始めとして、建築・内装・家具など様々な分野の提案を通して、私たちが考えていることをお伝えしてゆきたいと思っています。



上 「成瀬友梨+猪熊純プロジェクト展 Growing from Context」のポスター。写真は「ひとへやの森―インタラクティブな風景展」
下 猪熊純氏

建物の意味を再発見・増幅するリノベーション

家成俊勝＋河内一泰＋赤代武志＋長坂常

長坂 常 スキーマ建築計画代表。1971年大阪府生まれ。東京藝術大学美術学部建築学科卒業後、スタジオスキーマ（現スキーマ建築計画）を設立。ギャラリーとのコラボレーションオフィス「happa」を経て、2007年に事務所を上目黒に移転。主な作品に「Sayama Flat」、「奥沢の家」、「ブルーボトルコーヒー 清澄白河ロースタリー&カフェ」など。インテリアから商業施設まで幅広く手がけている。

赤代武志 ドットアーキテクト共同主宰／神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科非常勤講師。1974年兵庫県生まれ。神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科卒業後、北村陸夫＋ズーム計画工房、宮本佳明建築設計事務所を経て、2004年に家成俊勝とともにドットアーキテクトを設立し設計活動をスタート。

河内一泰 河内建築設計事務所代表。1973年千葉県生まれ。東京藝術大学美術学部建築学科卒業後、同大学院修士課程修了。難波和彦＋界工作舎を経て、2003年河内建築設計事務所を設立。現在、芝浦工業大学、東京藝術大学ほかで非常勤講師を務める。主な作品に「HOUSE kn」（AR Awards 2009 SHORTLISTED）、「カメハウス」（ICONIC AWARDS 2015 ドイツWinner賞）、「アパートメント・ハウス」（International Architecture Awards 2015, Honorable Mention）など。住宅の設計を中心に活躍している。

家成俊勝 ドットアーキテクト共同主宰／京都造形芸術大学空間演出デザイン学科特任准教授。1974年兵庫県生まれ。関西大学法学部法律学科卒業。大阪工業技術専門学校在学中から設計活動を開始。2004年に赤代武志とともにドットアーキテクトを設立。主な作品に、「No.00」、「Umaki Camp」、「美井戸神社」など。建築設計のほか、施工やアートプロジェクトの企画なども手がける。

外形に重点をおいた作品群

河内さんの「河内一泰展」は二〇〇六年一〇月でした。

独立初期のプロジェクトを展示しました。当時は、建築の外形を設計のコンセプトとしていた頃で、山梨の別荘「書家のアトリエ」（二〇〇四年）はそれが顕著でした。周辺に田園が広がっていて、隣家もほとんどない六〇〇坪ほどの敷地。この大きな自然環境に対して建築の外形をつくることで、風景とどのような関係を保てるか、と考えたわけです。環境に対する住宅の形に重点をおいて設計し、黒い箱を斜めに建てました。屋上に立つと船首に立った時のような風景が得られるのではないかと、という仮説を立てていたんです。一方で、外壁が傾いている下にエントランスを配置して、雪が入り口を塞がないようにするという機能性も確保しました。

建物の外形の話が完結したのが、「住宅地の家」（二〇一〇年）。周辺の家をトレースするように、隣の家の外壁があるところに壁を立て、外壁のないところは開けるというルールをつくりました。敷地に沿って壁が立っているのに、家の中にも空き地にいるような空間に感じられます。外にいるような感覚が得られるのに、プライバシーは保たれている。開放と閉鎖という施主の相反する希望を叶えたものです。この住宅を設計した時に、建築の外形については一つの区切りがついたなと思いました。

ほかに、リノベーションのプロジェクトも展示しました。「Hu-la creative japan」（二〇〇五年）というオフィスです。レーズのカーテンを壁に貼り付けているのですが、古いものと新しいものをいかに並立させるかという視点で、まったく手を加えないところ、五〇パーセントくらい透過させるところ、白く塗りつぶすところ、と区分しました。インテリアデザインは、表



上 「書家のアトリエ」（二〇〇四年、河内建築設計事務所 外観）
 右下 「河内一泰展」の展示風景
 左下 河内一泰氏